子宮頸がん検診ではどのような検査をするのですか？

1. 問診：患者の年齢や生活の様子、性生活、家族歴、母乳育児歴、自覚症状の有無などを問診票に記入、さらに、診察室で医師からの質問に答えます。

2. 触診：内診にて、医師による検査を受けます。子宮頸部の状態を目で確認し（視診）、子宮に腫れがなかろうと調べます。

3. 視診：ベラやアブラのようなものを鏡内で挿入し、子宮頸部の粘膜を観察するようにして細胞を採取します。この時、少し出血する可能性はありますが、痛みなどの感覚は少ないです。

4. 検診終了：診察時間は10〜20分です。約2〜4週間で、検診結果は含めた検査結果がわかります。

子宮頸がんの原因について

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの持続的な感染が原因となって発症します。HPVの子宮頸部への感染はほとんどの性交渉によりますが、このウイルスに感染すること自体は決して特別なことではなく、誰でも感染する可能性があります。HPVに感染しても、ほとんどの場合は自然に排除されますが、ウイルスが排除されず長期に感染が続く場合があり、ごく一部のケースで数年〜数十年間かかって、子宮頸がんを発症します。子宮頸がんは長期にかけて発症する病気であり、早期に発見すればがんといってもほぼ治癒します。検診で、子宮頸がんからあなたの体を守りましょう。